

ダイズの湿害軽減技術 ダイズ種子の含水率調節は 冠水障害を軽減する

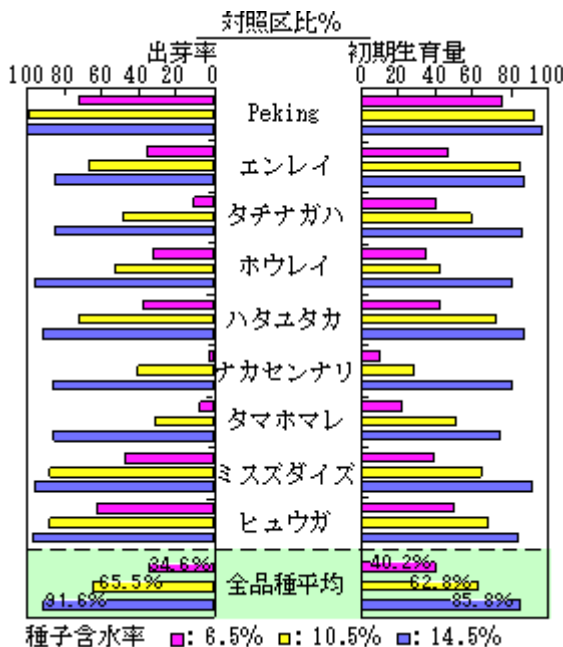
Control of Wet injury of Soybean by the Adjustment of Water Content

湿害による発芽不良は水田転作畑でのダイズ栽培を不安定にする原因の一つです。播種前にダイズの種子含水率をあらかじめ高めておくと、苗立が向上することを明らかにしました。

ダイズ種子は吸水速度が速く、乾燥種子を水に浸漬すると、急激な吸水と種子の膨張により種子が砕けてしまいます。

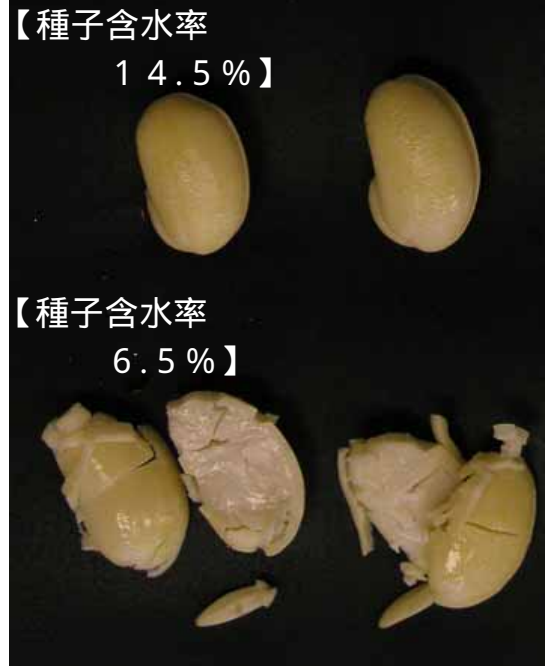
含水率調節による 湿害軽減効果

あらかじめ種子含水率を15%程度まで緩やかに高めた種子は、水に浸かっても砕けにくくなります。



種子浸漬がダイズの出芽率と初期生育量におよぼす影響

注) 種子を水に浸漬処理しない対照区を100とした相対値。



急速な吸水によって破壊された種子
含水率を6.5%および14.5%に調節したタチナガハの種子を2時間水に浸漬した。

含水率を15%まで高めることによって、品種にかかわらず、出芽率や初期生育量を大幅に改善することができました。

種子含水率の調節による発芽時の湿害軽減は、転換畑でのダイズ生産の安定化技術として期待されます。

作物研究所 大豆生理研究チーム

問い合わせ先: 企画管理室 tel:029-838-8260

E-mail: www-nics@naro.affrc.go.jp http://nics.naro.affrc.go.jp/